

相生山緑地をめぐる 名古屋市の動き

やっと **説明会が6月
~7月に開かれる見込み
です。**

世界の「AIOYAMA」プロジェクト
外検討会議記録から
以下抜粋します。

「防災機能については、
**1車線相当の園路を設けて
下山畑口から相生口を
つなげることで確保でき
ることを確認**」
(井田道路建設部長)

「(説明会などでは)丁寧に
説明いただいて、ご意見
をうかがっていただき
たい」
「(道路ネットワーク機能、
山根学区入り込み、の対
策がなされ) **道路が園路
になり公園になっていく**」
(山田天白区長)

「今回の緊急車両につい
ては自然破壊の話もある
中で、**園路を造る造らな
い、どっちに転んでもそ
んなに影響はない**」
(木全消防長)

「すごく改変しろという意
味ではなく、**自然を大事
にしながら検討を進めて
欲しい**」
(河村市長)

市長方針を基に、とし
ながらも市の幹部の発
言のなかで矛盾がみう
けられます。市政の方
向を定めるには、市民
のまっとうな意見の集
中が求められていると
感じています。

**「説明会」や「意見
聴取」に参加する準
備をしよう。**

ヒメボタルと人間と

相生山もヒメボタル舞う季節を迎えます。
まだ成虫発生ピークではありませんが、もう人びとが出向き始めているようです。
今年もこれから1ヵ月、特に週末の夜にはたくさんの人が押しかけ、深夜まで森のあちこちをさまようことになりそうです。近年のSNSの普及、ラインやインスタブームのせいでしょうか、去年はこれまでにない大勢の来訪者を見かけました。けっして「自然回帰」といった傾向でないのは確かです。

みなさん、想像してみてください。
人の数が増えるとそれだけで、森のいきものたちへの圧力は強まります。土は固められ、道は広がり、枝葉が傷つけられ、ときにはゴミが捨てられ、侵入者が現れ、いきものたちの生息域が狭められます。



相生山緑地でのヒメボタルの
画像です。

動物写真家の加藤文雄さん
から提供いただきました。
相生山の道路や緑地公園の
今後について、自然と深くか
わっている経験をもとに、関心
を寄せ心配し、各方面へ情報
発信してくださっている方の一
人です。

人間たちは求めます。観察とか、調査とか、癒しとか、観賞とか、いい画像を友だちに
見せたいとか、子どもに自然を感じさせたいとか……。

けれどもヒメボタルは、人間のためにいのちの営みを続けているわけではありません。
姫蛍、ロマンチックな名前が付けられています。飛ぶのはオス。種の存続のため、光
の波動を発生しながら地表近くにうづくまるメスを求め、短い成虫期間を尽くします。

ヒトは全てのいきものたち、地球の命運さえも左右できるほどの力を持つに至りました。
だからこそ、自分たちの行動が他のいのちや環境にどんな影響を与えてしまうのかを、
もしかしたら取り返しのつかないことをしてしまうかもしれないと、臆病なくらい慎重でなく
てはならないはず。自分中心ではなく、総合的客観的でなければならぬと考えま
す。ごう慢ではなく、限りない謙虚が求められていると思います。

相生山のヒメボタルは、相生山の道路建設に再検討を呼びかける活動の中で、その
存在が公表されました。「知られることで悪影響が予測されるけれども、古代から生き
残ってきた幾多の種の消滅の危機と比べればやむを得ない」という苦渋の判断であつ
た聞いています。

森のいきものたちにとって、いのちの存続にかかわる一大事＝道路建設による森の分
断は回避されたかに思われました。しかし、人間たちによって環境破壊は続いています。
「道路予定地」に園路を貫通させることを前提とした「公園」を考案する行政のみならず、
市民によるイベント目的や自己満足のための「自然の活用」によって、相生山緑地のい
のちが無視軽視されることに反対です。

私たちは今年は「ヒメボタルの観察会」を呼びかけることをしないつもりでいます。情報
収集と、認識不十分な「悪意のない無法者」に対する監視活動や啓発は続けたいと考
えています。ボタルたちをできるかぎりそっとしておく方向に舵をきりたいと思います。
ご理解、ご協力いただけますように。この試みが良い効果を呼びますように。

2018.5.12

by 森の妖精一同 代表してアイ